

認定NPO法人
多文化共生センター東京 ニュースレター
Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう

mingle

みんぐる

2017.9
Vol.56



特集

たぶんかフリースクール 杉並校を紹介します!!

<http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索

多文化VOICE 4

イチオシ&スタッフの声 5

たぶんかフリースクールの毎日 6

ボランティアの活動報告 8

いいね! 多文化共生センター東京のできごと 9



認定NPO法人

多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO®

私たちのビジョン

私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。
外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

私たちのミッション

外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、
日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通して、外国にルーツを持つ子ども達が日本の社会で各自の個性や能力を発揮できるようサポートします。

国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

:たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受験を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

多くの皆さんに知っていただくための働きかけをしています

:外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査

研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー
メールマガジン、ブログ、ニュースレター「みんぐる」の発行

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報を提供しています

:教育相談

:多言語による高校進学ガイダンス

ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

:子どもプロジェクト(学習支援)

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一对一でサポート

:親子日本語クラス

毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一对一でサポート

Top News 2017年度スタート!

2017年度がスタートして、5か月が過ぎようとしています。8月の「たぶんかフリースクール」は、中学生のクラスや9月編入の小学生も混ざりにぎやかです。2016年末の全国の在留外国人数（法務省発表）は前年度比15万人増の約238万人と増え続けています。来日した外国にルーツを持つ子どもたちの数も増え、今年の「たぶんかフリースクール」は、昨年度をはるかに上回る40名の生徒が学んでいます。8月の夏期集中授業では、短期の中小学生も含めて総勢69名、10カ国（中国、フィリピン、タイ、ネパール、ミャンマー、インド、エチオピア、韓国、ペルー、パキスタン、日本）の生徒が学習しました。当センターに寄せられる相談件数も5か月で100件を超え、学びを求める声は多く切実です。

また、2016年度フリースクール卒業生54名は高校生活をスタートし、時々、初々しい制服姿で訪れ、友達ができた喜びや日本語での授業の大変さなどを語ってくれています。

2017年度がスタートして5ヶ月、多文化共生センター東京についてお伝えします。

5月に杉並校開校

2011年に開校した「たぶんかフリースクール新宿校」は、新宿区新大久保で6年に渡って学齢超過の子どもたちを受け入れ、学びの場を提供してきましたが、新たにこの5月に杉並区井草に移転し、「たぶんかフリースクール杉並校」として開校しました。サレジオ修道会様からの申し出により民間の賃貸のマンションの狭い環境から、広く緑豊かな学びの場へ移ることになりました。国籍や言葉の違いがあっても楽しそうにバトミントンをする子どもたちの姿は嬉しいものです。

学びを求める子どもたちにとり、継続し安定した場所があることは最も大切な条件の一つです。杉並校が今後も子どもたちの学びの場として、継続していくためにご支援をいただきながら、団体として頑張っていきたいと思います。

2017年3月 認定NPO法人として東京都より認定がおりました！

2015年の5月で終了となっていた認定NPO法人ですが、その後の申請により、2017年3月に東京都より認定がありました。

認定NPO法人として認められたことにより、ご支援いただいた皆様からのご寄付については、税控除が受けられることになります。認定がはずれた期間においても、温かいご支援をいただきました会員、企業、団体の皆様には心より感謝申し上げます。

今後とも皆様には、外国にルーツを持つ子どもたちの学びのために継続したご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。
(木戸)

9月	8月	7月	6月	5月	4月	新年度開始からの
鎌倉方面遠足	秋学期開始	夏季集中授業	春学期終了	多言語進学ガイドランス スポーツ大会	総会 棚原基金 杉並学校開校	荒川校新学期



特集

たぶんかフリースクール 杉並校を紹介します!!



新宿区新大久保で6年、外国にルーツを持つ子どもたちが学んできた「たぶんかフリースクール新宿校」ですが、2017年5月に杉並区井草に移転して、「たぶんかフリースクール杉並校」として新たなスタートを切りました。

カトリック・サレジオ修道会の施設の一部をお借りした新しい教室は、緑豊かな静かな環境の中にあり、広い教室で学び、休み時間には中庭で元気に遊ぶ生徒たちの姿が見られます。そんな「たぶんかフリースクール杉並校」をご紹介します！

6月29日に開校式をおこないました！



サレジオ修道会のみなさまにご挨拶いただき、生徒たちもたくさんのお客さまの前で自分の国や町を紹介しました。おいしい手作りのお料理もいただきました！



杉並育英サイテックへようこそ

サイテック館長・サレジオ会司祭

浦田慎二郎さん

たぶんかフリースクールの皆様、特にそこで学ぶ若者たち、そして先生たち、サイテックにようこそおいでくださいました。

サイテックは、元はカトリック・サレジオ修道会の経営する「サレジオ高専（旧：育英高専）」という学校の施設の一部で、今は様々な研修・講座のために使われています。私たちサレジオ会は若者の教育を大切にしており、特に色々な理由で難しい状況にある青少年を助ける使命をいただいています。このたび、フリースクールに場所をお貸しできることは私たちにとっても光栄で、意味深いことです。宗教・人種の壁を超えて、若者たちが自分、そして世界の将来のために学びを深めるためここに集まってくれることが非常に喜ばしいです。彼らがここで学び、そして昼休みにバドミントンなどでのびのびしている姿を見て、日々励まされています。彼らがこの日本で、頭脳だけではなく、心も豊かに育ちながら、大きく羽ばたいてくれることを祈っています。

Q. たぶんかフリースクール杉並校はどんな学校ですか

とてもいい学校です。ここで勉強はおもしろいです。

Cくん

おおきくてりっぱな学校です。

先生はみんなとてもしんせつです。

Aくん

外国人の人に、ほんとにたいせつな学校です。

Dくん

たのしい学校です。

Nくん

Q. フリースクールでどんなことをして過ごしていますか

毎日、日本語を勉強しています。
英語と数学も勉強しています。

Dくん

勉強です。漢字の勉強は楽しいです。

Sさん

時々バトミントンをします。

Cくん

勉強します。そして友だちと話します。

Sくん

授業中は真剣に勉強！



杉並校はここです

アクセス
西武新宿線「井荻」駅から徒歩12分



多文化 VOICE

荒井 アールジェイさん

私はフィリピンの首都マニラの南のカビテ出身です。カビテはわかりやすく言えば千葉県と同じ位置にあります。7年前、15歳のときに家族の都合で来日し現在22歳です。

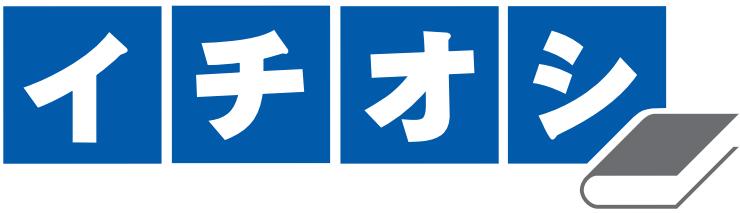
来日した当時、“こんにちは”や“ありがとう”という言葉すら話せなかった。ひらがな、カタカナ、漢字などを覚えるのがすごく大変でした。それに来たときは中学3年生で受験もありました。しかし、私は他の人より何倍も努力しなければならなかつたため、毎日、日本語の勉強に挑みました。1日も休まず、多文化フリースクールに通ったり、いろんな日本語勉強をやっているボランティアのところに行ったり、漢字を覚えたり、いろんな人と会話をしたりしていました。日本語を勉強しながら受験勉強もしなければなりませんでした。当時は遊びたくても、友達もおらず、会話もできずにいました。人生で一番辛かった一年間でした。その代わり、たくさんのこと学びました。努力は絶対に裏切らない、やつた分だけ自分の成長になり経験や知識になるなどを。

来日して1年後、中学を卒業して、無事都立飛鳥高等学校に入学することができました。やつた分だけ自分のためになりました。そして、高校も無事卒業し現在、神奈川大学にて英語の勉強をしています。

私の夢は言葉を使った仕事をしたいと思っています。私は日本に来て、言葉がわからないとたくさん困ることがあると知り、言葉を使って人を助けたり救えたりできることもわかりました。このように言葉の大切さを知り、人に役に立つような仕事をしたいと決めました。

日本にきて、外国人としての私はたくさん困ったことがあります、生活においても、学校や人間関係でも。私は日本とフィリピンの文化の違いに慣れるのにすごく時間がかかりました。違う生き方、考え方などのこともあります。しかし、一番難しかつたのは時間の規則です。日本ではどこでも仕事でも学校でも10分前に着くのが普通です。フィリピンでは時間通りか少し遅れるのが普通です。しかし日本で生活する上では日本のやり方でやらなければなりません。今となっても、まだできないけど一生懸命頑張って時間を守るようにしています。

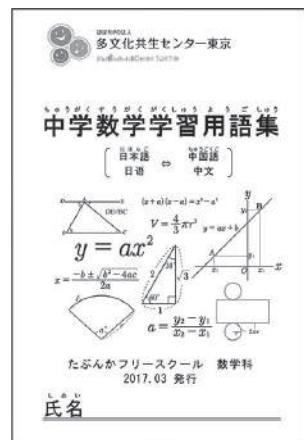
私はお互いの国の良さを知る経験をしました。考え方や生き方も知り尊重することもできます。そして、それを世界中に教えたいと思っています。このように、私はたくさんのこと学び、経験して、日本での生活を楽しくやりながら毎日を勉強だと思って生活しています。



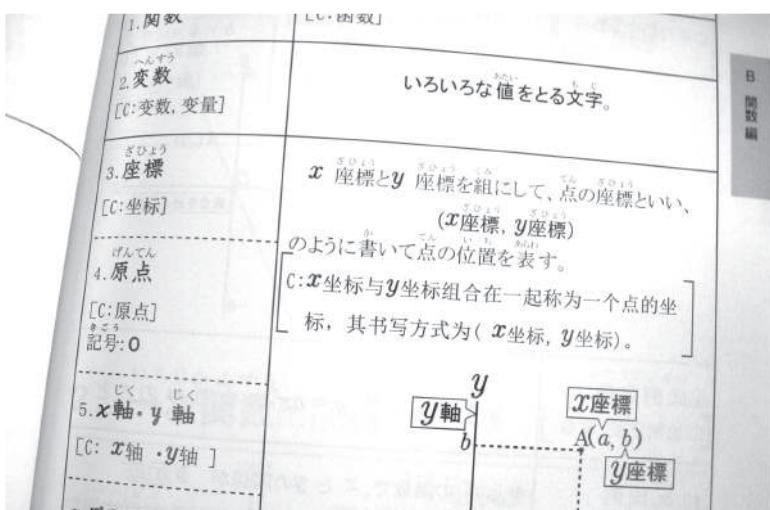
『多言語中学数学学習用語集』

たぶんかフリースクール数学科 編

多文化共生センター東京では、平成 28 年度三菱財団社会福祉事業・研究助成を受け、多言語中学数学学習用語集を作成しました。中学校で学ぶ数学で使われる言葉の各国語訳と、その用例と説明を載せています。外国にルーツを持つ子どもたちにとって、算数や数学を学ぶときに少しでも理解の助けになることを願っています。また学習支援をする方々にとっても参考になれば幸いです。



2017年4月発行



現在、利用可能言語は英語と中国語のみですが、今後ポルトガル語、ベトナム語、タイ語を公開する予定です。用語集は HP 上で無料ダウンロードができます。

<http://tabunka.or.jp/sugakuyougo>

みなさんの周りに外国にルーツを持つ子どもたちがいましたら、紹介してみてください。また学習支援者の方も、ぜひ活用してください。またこの冊子をさらに良いものにするために、ぜひ使用後の感想や意見をお寄せください！



はじめまして、4月から当センターの事務局スタッフとして勤務している南江美子といいます。私は2015年から、大学院で日本語教育を学ぶ傍ら、「たぶんかフリースクール新宿校」の日本語講師として子どもたちと関わってきました。日本語講師となったのは、高校の国語の授業で文法を学び、そのシステムティックさと奥深さに魅了されたことがきっかけです。そして大学でも日本語教育を勉強してきました。

大学卒業後は、メキシコや日本で日本語教師として働いていましたが、偶然、日本で働く外国にルーツを持つ方に日本語を教える機会があり、そこで「共に生き・理解し合う」ことのツールとして日本語が担えることを感じ取りました。そして、様々な思いで日本語を学ぶ方にとっての「日本語」を探りたいという思いから、大学院へ進学し、そこで「たぶんかフリースクール」と出会いました。

日々子どもたちと関わる中で、教えられることの方が多いです。子どもにとっても「ここ」は居場所でしょうが、子どもたちのおかげで、私自身にとっても「ここ」が居場所となりました。子どもたちが今学んでいることを携えて、各々の将来を輝かせていくってほしいと日々思っています。そのような思いで、現在はスタッフとして日々子どもたちと関わっています。今年も新しい子どもたちが4月から来ています。子どもたちも「たぶんか」1年生ですが、私も「たぶんか」1年生です。新規生として奮闘していきたいです！



〈たぶんかフリースクール荒川校〉

荒川校の2017年度は4月12日から始まりました。例年、4月は2クラスでスタートでしたが、今年度は杉並校の開校が5月となり、入学を待っていた生徒を荒川校で受け入れ、3クラスでスタートしました。

今まで荒川校は中国の生徒が大半を占めていましたが、生徒の出身はネパール、フィリピン、中国、エチオピア、タイ、ペルーなどで、個性豊かな生徒23名とにぎやかな日々が始まりました。

生徒は朝、「たぶんかフリースクール」に来るまず事務室で「おはようございます。」と挨拶をしてからそれぞれの教室に行きます。その日の生徒の様子が分かるこの習慣は続いています。授業前や休憩時間はピアノが得意な生徒はピアノを弾き、その

生徒の周りには何となく人が集まって来ます。スポーツが好きな生徒は出身に関係なく汗びっしょりになって卓球トーナメントをしています。いつの間にか覚えたばかりの日本語で会話が始まり、その国のスラングなどを教え合い、冗談が言えるようになっている事に感心しています。

春学期はまだ受験を意識することがあまりないようと思われますが、昨年度高校受験をして残念だった思いを抱いている生徒も数人います。15～17歳という年齢で、友人は既に高校生という状況を受け入れることは辛いだろうと感じています。しかし辛さも楽しさも同じ時間を共有する仲間と応援して下さる方々とともに、今年度も一緒に乗り越える事ができたらと思っています。(加藤)



〈たぶんかフリースクール杉並校〉

喧噪の新大久保から、緑溢れる静寂の下井草へ。狭いマンションから、広々とした学び舎へ。名前も杉並校と変わり、連休明けの5月8日生徒4人でスタートしました。広い教室にたった4人…、と思ったのも束の間、次々と新入生が入ってきて、7月には26人になり、日本語は3クラス。出身はネパール12人、フィリピン7人、中国6人、タイ1人です。

もう1つ、新大久保時代と違うのは、昼休み。近くに食堂などないので、ほとんどの生徒が持参の美味しそうなお弁当を食べた後、広い校庭でバドミントンをしたり、それを眺めながらソファーでおしゃべりしたり、ゲームをしたり、縁の中、ゆったりした時間が流れます。

6月29日には、校舎を貸してくださったサレジオ修道会の管区長をはじめ多くの方々の出席のもと、杉並校の開校式が行われ、生徒たちは、周りの人々に温かく見守られているのを感じたのではないかと思います。

遠くなったり、時々、卒業生の現役高校生が訪ねてきてくれます。場所は変わっても母校であることに変わりないんですね。近況報告をし、後輩たちとの交流を楽しんで、「また来るね。」と言って帰っていきます。

今後は、例年通り8月の夏期集中コース（3週間）を経て、9月から秋学期。杉並校1期生となる彼・彼女たちが来年の春を笑顔で迎えられるよう、少しでも手助けできたらと思っています。(伊東)

〈合同授業とスポーツ大会〉

6月23日（金）午前、杉並校の生徒が荒川本校に来て初の合同交流授業を行い、また午後には株式会社セールスフォース・ドットコムさんのご協力で、社員のみなさんと、あらかわ遊園スポーツセンターでスポーツ大会を行いました。

合同交流授業は、自己紹介から始まりました。その後、自分の町紹介をすると、徐々に生徒たちの顔もほころんてきて、セールスフォースの社員の方の「〇〇はどんな料理ですか。」「〇〇祭りではどんなダンスをしますか。」という質問にもしっかりと答えていました。そして、「うーん、日本語でなんて言つたらいいんだろう？」と困っている生徒に対しては、同じ国出身の生徒が母語でサポートに入って日本語が分かる生徒がそれをみんなに説明したり・・・なんとかお互い協力して、みんなのことを知ろうと懸命に日本語や母語で話をしていました。



午後はお待ちかねのスポーツ大会です。

社員さんの元気な掛け声の準備運動から始まり、ウォーミングアップはあつまれゲーム。先生が言った言葉の文字の数だけ集まるゲームです。

先生「たぶんかフリースクール！」

みんな「????? いくつ？！」・・・「11！」

夢中になって数えます。そして一生懸命、人を集めます！

ゲームの次はドッジボール大会！「ビデオでチェックした！」とは言っていたものの、みんなのイメージするドッジボールはそれぞれで、最初はなかなかルールがわからず、戸惑っていた生徒たちもいましたが、何回かやるにつれ、あっという間にみんな思い切り動けるようになってきました。勢いよくボールを投げる男の子！負けじとがんばる女の子！スポーツ大会の後はみんな「疲れた～」と言いながら、とっても素敵な笑顔でいっぱいでした。

楽しい1日をどうもありがとうございました。



〈ハートフル 荒川区日本語適応指導事業〉

ハートフル日本語適応指導事業では午前の通室と午後の補充、二つの日本語指導教室が行われています。通室の指導期間は二ヶ月で、授業時間は火水木金の9時～12時です。補充の指導期間は三ヶ月で、授業時間は火水木の17時30分～19時30分です。そして、学習場所は荒川区立教育センターです。この春学期、ハートフル通室指導に在籍した中学生は計18名でした。その中の12名の生徒は通室指導が終わってから補充指導に希望を出し、午後の補充教室に移りました。現在、補充指導に在籍している生徒の中には、中国出身が3名、ネパール出身が1名と、中国にルーツを持つ生徒が2名います。残りのフィリピン出身の4名の生徒は6月中に補充指導を終了しました。

私は通室教室の担当をしていますが、夏休みに伴い、通室教室が休みに入ったので、7月の下旬から補充教室の指導を始めました。

生徒たちは若い年に母国から離れて、日本の生活と日本の学校生活に馴染むことはとても大変で、その上、4月から7月までの間に各中学校に行事が多かったことで、通室の授業ではなかなか落ち着けませんでした。通室の欠席も例年より多くなりました。ところが、夏休みに入つてから、皆さんの補充教室での勉強意欲と集中力が一気に上がり、非常に大きな進歩をしました。これから、学校のテストや高校進学など大事なことが沢山ありますが、学校生活を楽しみながら、日本語も他の教科も頑張ってくださいね！いつも応援しています。（李）



新年度が始まり、あっという間に暑い季節になりました。こどもたちの数はこの暑さのせいか、遊びや勉強に忙しいせいか比較的少なく、落ち着いた雰囲気です。勉強中はそれぞれでひたすら黙々と漢字や計算の練習をする子もいれば、ひらがなカードを千本ノックのごとく答え続ける子もいてみんなそれぞれのペースで頑張って勉強に取り組んでいます。

そんな中で休憩の時間も、5分とか10分とかの短い間ですが、集中力の補充、ストレス発散や他の子との交流などとても大事な時間です。廊下で安全にできる範囲でですが、大縄や卓球、キャッチボールをしたりおしゃべりしたりと、十人十色の過ごし方があります。体を動かしている時は出身や日本語

レベルに関係なく、みんなが仲良くなれます。またおしゃべりでは、普段の学校ではなかなか母語で話す機会がない子も、リラックスして存分に自分を表現することができます。このように勉強では見られない別の輝きを見ることができ、傍で見ている私も楽しい気分になれます。まあ、時には休憩終了予定時間が来ても、謎の「あと、一球だけ！」無限ループでなかなか休憩から抜け出せないこともありますが、それでも勉強に戻ったら再び集中して、千本ノックの続きをしているのを見ると、メリハリが効いて素晴らしいと感心してしまいます。勉強も大事だけど楽しみがないと続けられないし、集中も続かないよなーと職場の机で投稿内容を考えている暇休みでした。(中村)

子どもプロジェクト

「王手！」 「負けました」 「来週また指したい」 … 最近、土曜日に、こんな声がちらほら聞こえるようになりました。天才少年棋士・藤井聰太四段の大ブームの影響か、何人かの子が、勉強を終えた後にボランティアさんたちと将棋を指すようになったのです。

中でも熱心なのが、タイ出身のA君とB君兄弟。私はいつしかほぼ毎週、2人とちょくちょく対局するようになりました（戦績はこちらが少し押され気味）。一手一手に時間をかけて熟考するA君と、思いついた手をパッパッと早指して進めるB君という風に、将棋にも個性が現れるのは面白いものです。

世界のボードゲームの多くは、古代インドのチャトランガというゲームが起源だとされています。そ

れが西洋に伝わってチェスになり、片や東方のアジアでは、中国やベトナムのシャンチー、タイのマーハークラック、朝鮮のチャンギ、そして日本の将棋に変身しました。つまり、将棋は決して日本だけのドメスティックな遊びではなく、海外で生まれ、各国の同種の競技とルーツや歴史を共有するゲーム。まさしく「多文化の共生」という考え方を体現しているわけです。

将棋を指することで、漢字や日本語の表現を覚え、日本文化の一端に触れ、算数や数学の思考力も向上します。もちろん面白さも抜群……と棋力の弱い私が言うのはおこがましいのですが、子供たちには、普遍的な魅力を持つこのゲームに（勉強をきちんとやった上で）気軽にトライしてみてほしいと思います。（広部）



いいね!



facebook.com/tabunkatokyo

多文化共生センター東京のできごと

多文化共生センター東京の事務局スタッフが多文化共生センター東京の毎日を Facebook に投稿しています。たくさんの「いいね！」を頂いた記事をここでご紹介させていただきます。



61人

6月27日

のかたが「いいね！」を押してくれました。

6月25日（日）、今年も東洋大学白山キャンパスにて「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス」を行いました。（このガイダンスは、毎年多文化共生センター東京他、11団体で実行委員会を構成し、都内で年に複数回実施しています。）

今回は雨にもかかわらず、何と、82家族、175名の参加がありました！国別に見ると、中国、フィリピン、ネパール、タイ、ミャンマー、韓国、ブラジル、スリランカ、マラウイ、エチオピア、ウズベキスタン等、13か国の外国にルーツを持つ子どもが参加しました。

通訳ボランティアの方も6言語（中国語、英語、タガログ語、ネパール語、タイ語、ミャンマー語）フル稼働で対応していただき、手伝ってくださったボランティアの方々も合わせると200名近くの参加者となりました。

今回のガイダンスには、中学3年生やたぶんかフリースクールの生徒だけでなく、中学1、2年生も保護者とともに来ていた、日本の教育制度や高校のこと等、講師の方のお話を熱心に聞いていました。

説明の後の個別教育相談では、「日本語や教科の勉強をしたい！」「勉強できる場所を見つけてたい！」という声もたくさんありました。



45人

7月21日

のかたが「いいね！」を押してくれました。

今日は春学期の最終日。杉並校でも日本語2クラスと3クラス合同の発表会が行われました。6月から勉強している日本語2は自分の町や食べ物の紹介、まだ2週間しか勉強していない日本語3も好きな食べ物や将来の夢も入れた自己紹介に挑戦しました。

まずは日本語3。なにしろまだ2週間、口もまわりません。なのに好きな食べ物は「パインアップル」…。がんばりました。

少しうまく言えるようになってきた日本語2。それでも練習した発表内容はともかく、その後に質問に答えるのはまだまだ難しい。

「ネパールのモモは甘いですか？」「はい、甘いです」

いやっ甘くないよ！もういっぺん形容詞の確認しよう。

（※ネパールのモモは果物ではなく、スパイシーなソースをつけて食べる餃子のようなものです）

緊張したり自信満々だったりそれ違いますが、みんな一生懸命に披露してくれました。

これからも Facebook に多文化共生センター東京の日常を投稿していきます。

皆様「いいね！」をよろしくお願いします。